

平成 22 年度第 1 回募集 財団法人浜松市文化振興財団

はままつ文化サポート対象事業

種 別	B 平成 23 年度企画力コース		
実施団体名	静岡文化芸術大学 文化芸術研究センター		
事業名	静岡文化芸術大学の室内楽演奏会 2011		
実施年月日	平成 23 年 5 月～12 月における 4 日間		
実施場所	静岡文化芸術大学ギャラリー、 浜松市博物館 他 2 か所	実施回数	4 日間 4 回
入場料	有料（一般 1,500 円／1,000 円 学生・生徒 500 円）		
事業内容	<p>静岡文化芸術大学 文化・芸術研究センターは、2006（平成 18）年以来、浜松市楽器博物館所蔵の歴史的ピアノを使う演奏会などによって内外から高く評価されるなど、地域の文化財を活用し、国内外に向けて浜松発の音楽文化を発信する「室内楽演奏会」を展開している。2010（平成 22）年度からはさらに、それまで中区に限られていた演奏会開催地に浜北文化センターを加え、室内楽のもつ機動性を生かして広大な市域に音楽を提供する事業を開始した（「東京藝術大学学生による演奏会」、2010（平成 22）年文化サポート「文化力コース」対象事業として好評のもと公演終了。）</p> <p>2011（平成 23）年度はこうした実績を踏まえ、楽器博物館に加え浜松市博物館との連携事業を強化し、天竜区、東区の市博物館関連施設を含む市内 4 か所において、室内楽の演奏会を計画している。出演者は、過去 2 年間に亘って真摯な演奏によって評価を得た、音楽大学で学ぶ若手奏者のほか、すぐれた演奏とともにヨーロッパの音楽生活について市民向けのスピーチができる音楽家を想定している。室内楽は音楽を人々の生きる身近な空間に届ける「メディア」である。それはヨーロッパの音楽生活においてそう有り続けたし、また今日の日本の地域社会においてもあてはまる。本学「室内楽演奏会」の実績が示すとおり、オーケストラや吹奏楽団の演奏が実現できない小さな空間でも、すぐれた奏者を揃えることができれば、大編成の音楽を超える表現力を生み出すことが可能であって、それがこのタイプの音楽が、洋の東西を問わず音楽生活のなかでおおきな役割を果たしてきた理由のひとつである。今回とくに一部公演に際して、既存の演奏会ホール以外の施設が使われることも、音楽と人が出会う新たな場所を開拓する意味で重要である。市民に近い小空間で鳴り響く少人数のアンサンブルの音楽によって、本プロジェクトは「音楽の都・浜松」の充実に、大学と博物館が連携にする際に強みを生かしながら寄与しようとするものである。</p>		
波及効果	<p>市文化財団が、市博物館と、市内の文化政策、アーツ・マネジメントの専門教育・研究機関である静岡文化芸術大学と連携して、浜松市の目指す「音楽の都」を実現しようとしていることが内外にアピールできる。</p> <p>広大な市域をもつ浜松市において、中区・浜松駅周辺の演奏会専用施設にとどまらず、各地域の住民と連携した演奏会を展開することによって、音楽によるま</p>		

	<p>ちづくりの事例を国内の他の都市に提供することができる。</p> <p>なお本事業が実施され、上記の主旨のものとして市内外からポジティブな評価を受ければ、本件に関連する大学関係者は2012（平成24）年度についても、同じ主旨の事業を発展的に継続するべく、関係諸機関との調整に取り組む可能性がある。</p>
事業費総額	1,450,000 円
助成金額	1,000,000 円